時ニシヌルホドノ毒アレド、氣味ハキハメテアマキ物也、毒ノ中ニモ辛ク苦キモアルベシ、又甘モアリ、一准ナラズ、其ノ易隨鴆毒ノ口ニアマキ也ト、帝範ニ云ヘル也、アマクチ子ズミモ是ニ同ジ、博物志ニハ鼷鼠ヲムグロモチト云ヘリ、鼷鼠鼢是等ハツ子ノウグロモチ也、鼷ヲウグロモチト云フハ珍シキ說也、

〔倭訓栞中編一〕あまくちねずみ　倭名鈔に鼷鼠をよめり、甘口鼠ともいふによる也、今いふ甘日鼠也といへり、甘口は人を喫て痛まざるをいひ、甘日は極て細小なるをいふ、凡鼠毒の害をなすは、此鼠なる事本草に見えたり、筑紫に髮きりといふは、酉陽雜俎に、人夜臥無故失髻者鼠妖也とみゆ、曾て聞く江都に此事ありて、夜々髻短くなるをもて、其人恐て一二里の外に居を移せども、終に喰盡すによりて病死せり、又岡崎の醫桂氏夫妻及子三年に毒鼠咬をもて皆死とぞ、

〔和漢三才圖會三十九鼠〕鼷音奚　甘口鼠　和名阿末久知禰須美

本綱、鼷者、鼠之最小者、嚙人不痛、食人及牛馬等皮膚、成瘡至死不覺、正月食鼠殘多爲鼠瘻、小孔下血者皆此病也、治之以豬膏摩之及食貍肉爲妙、

〔本草綱目譯義五十獸〕鼷鼠　ハツカ子ヅミ　アマクチ鼠和名抄　釋名ノ甘口鼠ニトリ合タル也、

此ハ市中ニ多シ、害ヲナス、小キ鼠也、親ハ二寸計、子ハ寸計、常ノ鼠ヨリ黑ミアリ、臭氣アリ、皆土ニ穴ヲホリ、土ニスム、今ハ鼠ヲ蓄コトハヤリテ、豆鼠ト云アリ、此ハ鼷鼠ヨリ小也、品類多シ、

〔燕石雜志五上〕俗呪方

避鼷鼠、鼷鼠は小鼠なり、これを甘口鼠といふ、和名阿末久知禰須美人を食ひ、牛馬を食ふに、盡るに至れども不痛、この鼠もし人につけば、每夜にその毛髮手足を食ふ、これを禦ぐことを百計すれども功なきとき、大きなる糸瓜を取て、その人の臥たる四方を引繞らして、これを枕方に置ば、その鼠亦